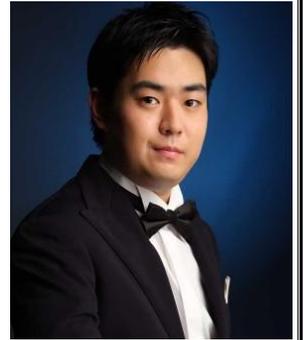


ありがとうの灯中

学校便り第16号
令和7年7月15日
福井市灯明寺中学校



先週の11日(金)の午後、本校PTA主催の教育講演会「ミュージック・フェスティバル」が開催されました。平成27年度に本校を卒業した、重森光太郎さん(中藤小出身)をお招きして、前半はミニピアノ教室を行い、後半は重森さんのとても美しい世界的ピアノの音色に全校が酔いしれました。重森さんは6歳よりピアノを始め、本校を卒業後は東京にある桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)へ進学。同桐朋学園大学音楽学部を卒業し、現在パリ・エコールノルマル音楽院の奨学生、並びに、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースの特待生として、フランスでピアノ留学をされています。



これまでに、ラフォーレジュルネ in Tokyo、宮崎国際音楽祭、いしかわ風と緑の楽都音楽祭などに出演。NHKをはじめ多くのメディアにも出演の他、ソリストとして、東京フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、オーケストラアンサンブル金沢、パリギャルド・レピュブリケーヌ管弦楽団等と共演されました。ソロの他、伴奏や室内楽にも積極的に取り組まれ、2024年から2025年にかけて計6回に渡り、フリーマガジン「ピアノの本」にて留学誌のコラムを掲載など多方面にて活動していらっしゃいます。特に、2022年の11月、フランスパリで行われたピアノ界ではとても有名なロン・ティボー国際コンクールにて、ピアノ部門で第4位受賞を果たし、一躍世界的ピアニストの仲間入りを果たされました。

今回の演奏では、ドビュッシー作曲の『月光』など、生徒たちが聞きたい楽曲をあらかじめ投票し、当日はその中の上位3曲を演奏していただきました。まさに「言葉を失う」とはこのことで、どうしたらあのように高速で指が動き、心の様子を実に見事にピアノの音で表現できるようになるのか、私たちは只々圧倒されながら、そして、心を揺さぶられながら、重森さんの奏でる世界に浸りました。以下に、生徒の声を載せます。

1年生…重森さんの演奏は、とても想像が膨らみました。高音で小さく丁寧に弾いているときは、悲しみをぐっところられている様子が、また、和音で豪快に弾いているときは、こらえきれない程の憎い気持ちや恨み、怒りを想像できました。重森さんの型にはまらない、イメージをそのまま表現しているところを私も真似したいです。今日の演奏のおかげで、想像が広がり、気持ちが爽やかになりました。そして、想像させる音楽の素晴らしさを学びました。今日はありがとうございました。

2年生…重森さんが5曲全てを暗譜して演奏しているのが凄く驚きました。ピアノを演奏しているとき、体でも表現しながら弾いていて、場面や情景がよく伝わってきました。演奏中に、ときどき息を吸うような音が聞こえて、ピアノでも楽器で息を吸うときのようにするのかと驚きました。世界4位の方のピアノコンサートなんて聴きたくても聴けないものだと思うので、今日は凄く貴重な体験ができて、とても嬉しかったです。

3年生…重森さんの演奏は、ペダルを踏む深さや回数、強弱の緩急の速さ、息を吸うタイミング、すべてが素晴らしいと感じました。速符もすらすら流れていく感じではなく、1つ1つの音の形がしっかりと認識できるように弾いていらっしゃいました。特に、アンコールの曲は今までずっと弾き続けていたにも関わらず、連符が凄くて驚きました。全身を使って演奏していて、まるで重森さんとピアノが同化して、音を奏でているかのようなでした。本当に素晴らしかったです。また、ぜひ聴きたいです。

他にも、多くの生徒たちが、重森さんの演奏から美しい音を楽しむだけでなく(音楽)、演奏する姿や音色から努力の大切さや物事を追求することの尊さ、プロとしての自覚のレベルの高さなどを学んだ(音学)という



感想がみられました。彼との話の中で、フランスでは1日約10時間ピアノを弾いていて、ピアノはすでに身体の一部になっていると笑顔で話をしていました。「『努力』に勝る天才はなし」という言葉がありますが、彼こそがまさにその人だ!と感じました。福井市灯明寺中学校長